



研究調査報告

海外神社跡地のその後

中国・華北(北京、天津、済南、煙台、青島)の神社跡地

稲宮 康人

(非文字資料研究センター 研究協力者)

2014年4月25日から5月6日まで中国・華北(北京、天津、済南、煙台、青島)の神社跡地の撮影・調査を行った。各都市の名を冠した神社跡地以外に天津稲荷神社跡地、済南の神社跡地、青島の台東鎮神社跡地に行った。以下各神社の概要を報告する。

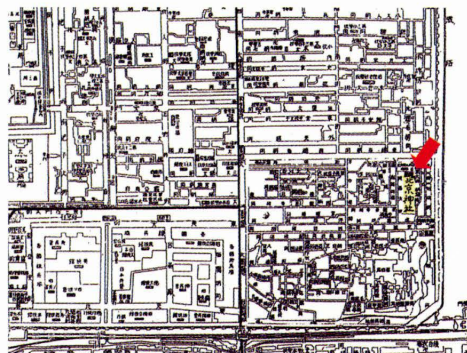
北京神社(写真1) 2014年4月26日

北京神社は、^{注1}「事後、急速に居留民が増加したので、「われ等の北京神社」「日本帝国の宗旨としての神社」を熱望する声が、官民を通じて起った」という動きを受けて、1940(昭和15)年6月24日に北京の貢院(明清時代の科学試験場)跡に鎮座した(地図1)。中華民国に創建した神社だった為、日本の社格制度は適用されず、官国幣社の小社に準ずる神社として扱われた。

神社があった場所は、地下鉄建国門駅付近の胡同や社会科学院の敷地である。この胡同は取り壊しが進んでおり、胡同が壊された跡は廃物置場や建築作業員のプレハブ宿舍となっている。9月に再訪した際には、廃物置場がトタン塀で囲まれていた。神社の痕跡は何もない。胡同の住人の中には、この場所に神社があったことを知っている人もいた。

天津神社(写真2) 2014年4月27日

北京の外港として発達した天津は1860年の北京条約によって開港し、義和団事件の後、列強各国が租界を設けた。天津神社は、大正天皇即位を記念して1920(大正9)年10月11日に天津日本租界の大和公園敷地内に創立された。1938(昭和13)年に社殿改築及び境内拡張を決め、1941(昭和16)年秋に竣工したようであるが、拡張後の神社については資料がなく詳細は不明である。鞍山道・山東路・新華路に挟まれた区画が大



地図1 最新北京交通圖から北京神社付近図(昭和15年11月7日発行)

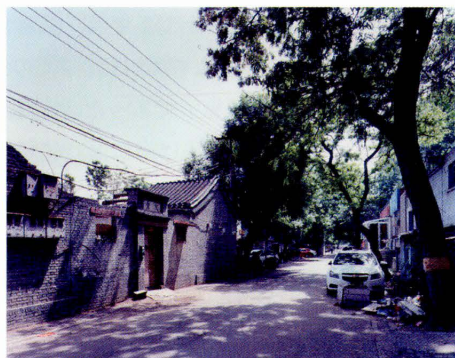


写真1 北京神社跡。道(貢院東街)の右側は社会科学院の敷地。左側は貢院胡同



写真2 天津神社跡。写真右側にあるガソリンスタンドや赤い瓦屋根の建物辺りにあった



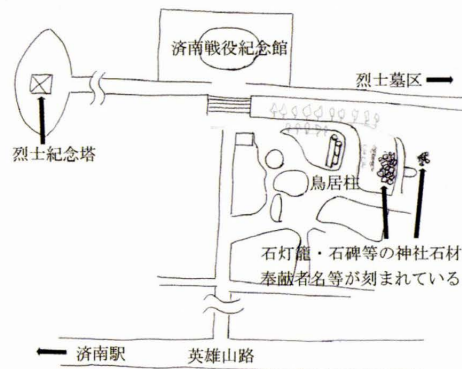
写真3 天津稻荷神社跡



写真4 済南神社跡。石灯籠の竿部分。「茨城縣筑波町 廣瀬〇次 昭和十七年七月十七日」と刻まれている



写真5 奥の済南戦役記念館が建つ場所が本殿跡だと推測される



見取図1 済南神社跡見取図

和公園の跡地であり、八一礼堂や中国石油のガソリンスタンドがある。公園の南西部分にあった神社（拡張前）の跡地にはガソリンスタンドなどが建っている。神社の痕跡は何も残っていない。

天津稻荷神社（写真3） 2014年4月27日

1926（大正15）年4月27日に創立した。万全道と山西路が交差する辺りにあったと思われる、現在は市街地になっている。当時の住所は「天津市伏見街5」だったので、京都・伏見の人達が移住した地区に故郷の稻荷を勧請したのかもしれない。現地の人はこの場所に神社があったことは知らないようだった。

済南神社（写真4、5、6/見取図1） 2014年4月29日

済南は山東省の省都で膠済鉄道（青島ー済南）と京滬鉄道（北京ー上海）が交わる交通の要衝である。日本軍は、蒋介石率いる国民革命軍の張作霖への北伐再開を牽制する為、居留民保護を名目にして出兵（第二次山東出兵）した。1928（昭和3）年5月3日に済南で市街戦が起こり、8日には日中全面衝突へと発展した。日本軍は、多数の現地人を殺傷し、中国国民の対日感情を極度に悪化させることとなった（済南事件）。更にこれに乗じて増派した兵力を山東省から華北全域に展開させた（第三次山東出兵）が、内外の批判を受け翌年には撤兵することとなった。

済南神社は市の郊外にある梁家庄（現・英雄山）に創建された。資料は発見できていないが、中国版 google の baidu.com で地名＋神社で検索し、場所を特定した。設立許可が1941（昭和16）年、残された石灯籠等に刻まれた年号から1942（昭和17）年7月に鎮座したと思われる。境内地は済南革命烈士陵園となっている。神社の本殿があったと思われる場所には、国共内戦における共産党の勝利を記念した済南戦役記念館が建っている。神社の鳥居、灯籠、石碑などに使用された石材が公園の一面にまとめて置かれている。石材を撮り終わった後、記念館を正面から撮影しようとしたところ、警備員に制止され、それ以降の撮影は難しくなった。軍が管理している建物では、三脚を使った撮影は制止されることが多い。

公園の片隅に無雑作に積まれた石材は、第二次アヘン



戦争時に英仏軍によって破壊された離宮をそのまま保存している北京の円明園と同じように、外国による侵略の痕跡をあえて残し、人民に晒しているようにも見えた。

神社 (写真 A) 2014 年 4 月 29 日

済南市内の中山公園の説明版に、「日本軍占領後ここに神社などが建てられた」(大意)との記載があった。どういう神社だったのか資料がないため判らないが、祠のようなものだったのではないだろうか。

芝罘 (チーフー) 神社 (写真 7、8) 2014 年 5 月 1 日

山東半島北部に位置する芝罘(現・煙台市)は、1858(安政5)年の天津条約で開港し、貿易港として発展した。渤海海峡を挟んで大連・旅順のある遼東半島と向かい合う位置にあり、北京・天津へと向かう海路を睨む位置にある。かつて倭寇に備える狼煙台があった煙台山には、列強諸国が競うように建てた領事館が並んでいた。芝罘神社は煙台山山頂に1942(昭和17)年10月に創建されている。「芝罘：芝罘尋常小学校創立百周年記念」(芝罘会記念文集成委員会)に「彼らを讃えた『抗日英雄記念碑』が1964年建立されています。説明書に記載ありませんが、神社の台座が記念碑台座として活用されているようでした。」との記載があり、それを頼りに現場を訪れた。抗日英雄記念碑の基壇は五角形になっており、神社基壇を改築して使っているようである。記念碑の後ろにある東屋の基壇は、1940(昭和15)年頃に日本が建てた戦跡記念碑の基壇がそのまま使われているようである。

煙台山は各国の領事館を保存した異国情趣を楽しむ観光地になっている。各国領事館だった建物の中では様々な展示が行われている。日本領事館と領事館員の寮も残っているが、そこでは展示は行われていなかった。

青島神社 (写真 9、10、11、B/見取図 2) 2014 年 5 月 2、3 日

1898(明治31)年にドイツは膠州湾を租借し、港湾整備や膠済鉄道の敷設を行い、ドイツ東洋艦隊の基地を築いた。その中心都市が青島である。1914(大正3)年第一次世界大戦に参戦した日本が占領した。日本政府

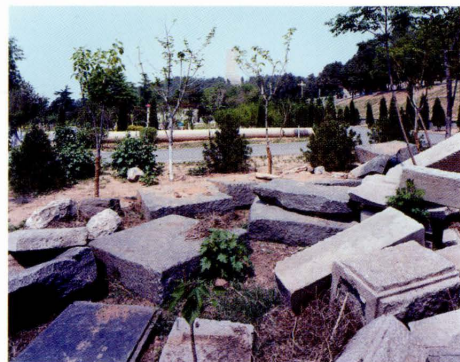


写真 6 神社に使われた石材と鳥居の柱。写真左端に写る石碑には「長野縣人 山崎武源太 昭和拾七年七月吉日」と刻まれている。奥に見えるのは烈士記念塔

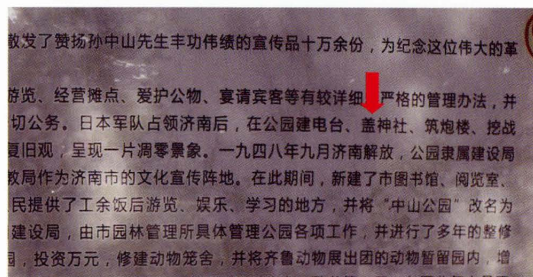


写真 A 済南・中山公園の説明板。「蓋神社」という一文がある



写真 7 芝罘神社跡。抗日英雄記念碑。後ろは観光用灯台

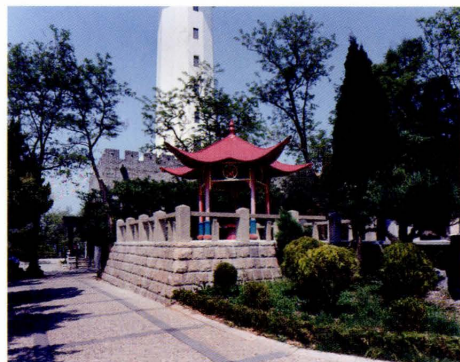
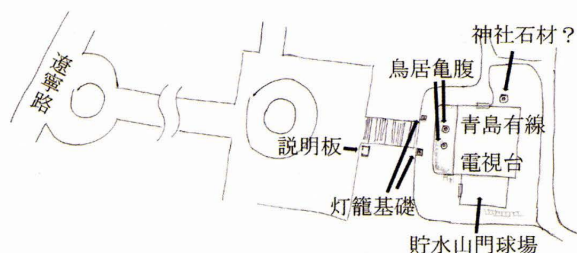


写真 8 記念碑の裏にある東屋。基壇は戦跡記念碑のものか



見取図 2 青島神社跡見取図

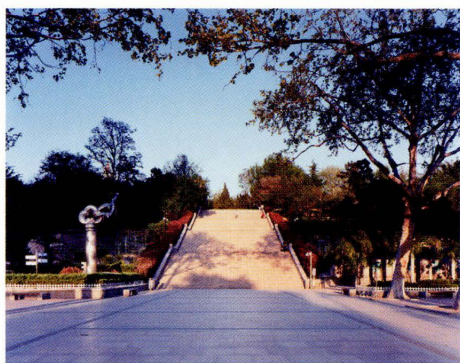


写真 9 青島神社跡。階段上り口の右側にはこの場所の由来を書いた碑（写真B）がある



写真 10 青島神社跡。階段を上った場所にある青島有線テレビ台。本殿・拝殿があった場所



写真 11 青島神社跡。階段と有線テレビ台の敷地の間に残っている鳥居の亀腹

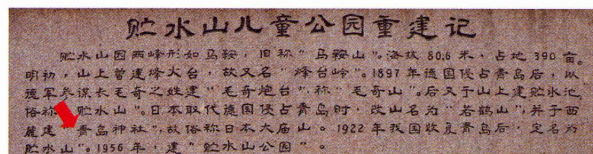


写真 B 貯水山児童公園の説明板。日本時代や青島神社についても書かれている

が翌年出した対華二十一条要求の中で満蒙權益等と共に山東省ドイツ權益の譲渡も求め、中国は受諾したが、日華関係は決定的に悪化した。1922（大正 11）年ワシントン会議で結ばれた日中山東条約によって中国に返還された。返還後も多くの日本人が紡績や食品加工業を営み、青島は一時、華北最大の軽工業都市となった。日本軍は、1927（昭和 2）年 5 月に北伐に対抗して青島に派兵（第一次山東出兵）したが、内外の批判を受け 9 月には撤兵した。

青島占領と共に軍が神社創建を決め、1916（大正 5）年に^{注2}山東省を大陸発展の基地とし、大陸経営の遠大なる理想の下で「官幣大社の規模で作ることを決定し、1919（大正 8）年 11 月 7 日に鎮座した。

境内跡地は貯水山児童公園となり、本殿跡には青島有線テレビ台と貯水山門球場がある。有線テレビ台敷地内の調査は出来なかった。本殿に上る階段は当時のものと思われる。また、階段を上った場所には、灯籠基礎、鳥居亀腹が残されている。また、神社に使用されていたと思われる石材も公園内でちらほらと見受けられた。鳥居亀腹は植え込みに囲まれた場所にあり、私は気付かなかったが、撮影中に集まってきた現地の人達が案内してくれた。

台東鎮神社（写真 12） 2014 年 5 月 3 日

1915（大正 4）年 3 月に創立され、大国主命を祀った神社。商業地区の台東地区にあった。神社跡地は公園だったが、現在は再開発中でビルを建てている。何も残っていない。

注1)「大陸神社大観」（大陸神道連盟 昭和 16 年）

P291

注2) 同上

P284



写真 12 台東鎮神社跡